

令和4（2022）年度

岡山県立大学大学院

保健福祉学研究科

（博士後期課程）

海外特別入試学生募集要項



I 岡山県立大学大学院保健福祉学研究科の入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)

保健福祉学研究科の入学者受入れの方針

保健福祉学研究科は、保健・医療・福祉分野の専門職としての深い知識と卓越した能力を身に付け、各分野の課題を提起し、それを解決し得る研究能力を持つとともに、広く健康社会の発展に貢献できる研究者あるいは高度専門職業人を育成します。

このため各専攻ではアドミッション・ポリシーに示す入試を実施し、広く国内外からの学生を選抜しています。

保健福祉科学専攻（博士後期課程）の入学者受入れの方針

保健福祉科学専攻(博士後期課程)は、人間が抱える諸問題に関して、生命や栄養、看護、福祉など各方面からアプローチし、深い倫理観と総合的な判断力をもって、問題の解決策を提案できる高度な見識を備えた各専門職領域の実践者、指導者、研究者及び教育者の育成を目指しています。

したがって、保健・医療・福祉分野の広範な知識・技能とともに深い倫理観と総合的な思考力・判断力を持ち、高度な学問的見識や英語を含む十分なコミュニケーション力を修得し、海外や地域における保健福祉問題を掘り起こして、その対策を立案する意欲のある人を求めます。

本専攻では、外国語(英語)の筆記試験と、修士論文と研究計画書に基づいて専門知識やそれに基づく思考力・判断力、意欲、人物を評価する面接試験を行います。

**令和4（2022）年度
岡山県立大学大学院保健福祉学研究科（博士後期課程）
海外特別入試学生募集要項**

【募集人員】

若干人

【出願資格】

次の①から⑥までをすべて満たす者。

- ① 次の大学の学長が、責任をもって推薦できること。
韓国：又松大学校、中国：四川大学・南昌大学・東南大学、
インドネシア：ハサヌディン大学、ネパール：トリブバン大学、
台湾：国立雲林科技大学、タイ：カセサート大学
フィンランド：ラハティ応用科学大学
- ② 修士の学位を取得した者、または2022年3月末までに取得する見込みの者。
- ③ 学士及び修士の学位の取得に当たり、優秀な成績を修めていること。
- ④ 研究テーマに係る専門知識が豊富で、勉学意欲が旺盛なこと。
- ⑤ 研究テーマに係る研究活動を、英語または日本語で円滑に行うことができること。
- ⑥ N2レベル以上に相当する日本語能力を有することが望ましい。

【入学日】

2022年4月1日（金）

【出願手続】

(1) 出願方法

- ・所定の入学志願書及び必要書類を、推薦大学を經由して、国際郵便等で提出すること。電子メールによる出願は認めない。
- ・入学志願書及び必要書類は、日本語または英語で記載すること。

(2) 出願期間

2021年11月9日（火）～11月15日（月）

(3) 出願先

〒719-1197 岡山県総社市窪木111番地
岡山県立大学事務局教学課入試班

【出願書類等】

- ① 志願書（様式1）
- ② 卒業及び修了（見込）証明書（厳封のこと）
- ③ 成績証明書（学部・大学院各1通／厳封のこと）
- ④ 修士論文概要書
- ⑤ 研究計画書
- ⑥ 学長及び指導教官の推薦書（厳封のこと）
- ⑦ 受験票及び写真（様式2及び3）
- ⑧ その他（日本語能力を証明することができる書類を有している場合はその写し）

【大講座主任及び指導希望教員との面談】

出願に先がけ、2021年11月2日（火）までに、推薦大学と岡山県立大学を、インター

ネットを利用したテレビ電話や Web 会議システム等で結び、入学志願者は、入学を希望する研究科の大講座主任及び指導を希望する教員との間で、英語及び日本語による「遠隔面談」を、必ず複数回行うこと。ただし、出願書類の中で、①、④、⑤、⑥、⑦、⑧については、そのコピーが、第1回目の遠隔面談の2週間前までに本学に到着していること。遠隔面談の日程調整は、2021年10月19日(火)までに、事務局教学課入試班を經由して電子メールで行うこと。

【試験】

(1) 試験日 2021年12月3日(金)

(2) 選考方法

入学者の選考は、推薦大学と岡山県立大学を、インターネットを利用したテレビ電話や Web 会議システム等で結び、これを用いた英語及び日本語による「遠隔面接試験」の結果を総合して行う。

〈内容及び配点〉

- | | |
|-------------------------|------|
| ① 専門分野に係る口頭による試験 | 100点 |
| ② 修士論文及び研究計画書に係る口頭による質問 | 100点 |

【合格者発表】

(1) 通知期日 2021年12月10日(金)

(2) 通知方法

- ・推薦大学を經由して、結果を志願者に通知する。
- ・入学許可者に対しては、推薦大学を經由して、入学許可証及び入学手続きに関する書類を送付する。

【入学手続】

(1) 手続期限 2021年12月24日(金)まで(必着)

(2) 手続方法

- ・手続に必要な書類を、推薦大学を經由して、国際郵便等により提出すること。
- ・期限までに手続を完了しなかった者は、入学を辞退したものとして取り扱う。

【入学者の特典】

- 入学料を、全額免除する。
- 授業料を、最長3年間免除する。(成績に応じて中断・取消の場合あり)

【その他】

- 入学検定料は、無料とする。
- 博士の学位の授与は、岡山県立大学大学院の関係規程等に基づいて行われるところであり、この特別入学試験による入学が、そのまま博士の学位の授与を保障するものではない。
- 日本での留学に必要な在留資格取得のための手続を、岡山県立大学の協力のもとで、入学時まで完了させること。
- 入学を許可した後であっても、出願書類の記載と相違する事実が確認された場合には、入学を取り消すことがある。

Ⅲ 岡山県立大学大学院保健福祉学研究科(博士後期課程)案内

少子・高齢化が進展し、複雑化・多様化している地域社会において、真に豊かな高福祉社会を実現するためには、少子・高齢社会にふさわしいより質の高い保健福祉サービスの基盤を整備することが緊急の課題となっています。そのため、本学は「人間尊重と福祉の増進」を基本理念として保健福祉学部並びに大学院博士前期課程において、より専門的な教育研究を進めるとともに、保健福祉分野の推進役となる人材を養成してきました。

かかる実績を踏まえ、さらに保健福祉科学の一層の深化及び地域住民の健康の維持・増進の学術的拠点の構築を目指し、保健福祉に関する諸問題に解決を与え得る高度の見識を備えた教育者・研究者の育成を行うことが重要です。このため本専攻は、人間の健康課題について、看護学、栄養学、保健福祉学の各大講座の専門性をいかしつつ多面的な切り口で教育・研究を行います。

大講座編成と教育・研究内容

【看護学大講座】

看護専門職は多様かつ急速に変化する社会状況を認識し、人々の健康の維持・増進又は疾病予防や回復を目指す方法を見出していかなければなりません。そのためには健康と看護の概念の史的変遷を踏まえ、看護実践を通して生じる諸現象やケアそのものを科学的に解明していく必要があります。本大講座では、慢性疾患患者やがん患者及びその家族が抱える諸問題や高齢者等のケアニーズに対応する看護システムやケア開発、看護の質向上に資する教育・研究を行います。

【栄養学大講座】

高齢社会を迎え、生活習慣病をはじめとする慢性疾患から人々を守り健康を維持・増進するためには、食と健康に関する諸問題を解決する必要があります。本大講座では、食事に伴う栄養現象を生命科学のアプローチにより解明し、病気の一次予防から三次予防に至る各過程にいかすことを目指した教育・研究を行っています。研究分野は、食品中に含まれる新規機能性成分の探索並びに食品の安全性の追求、慢性疾患における脂質代謝をはじめとする代謝調節系の役割の解明、そして生命現象としての栄養の中樞神経系における制御系の解明に及んでいます。

【保健福祉学大講座】

少子・高齢社会において、社会福祉学的視点と健康科学的視点からの保健福祉問題の解明は人間の健康と生活の質の向上に寄与するものです。本大講座では、児童、障害児・者、高齢者を主な対象として、その自立支援に関する教育・研究を行います。研究の分野は、(1) 児童の健全育成と発達保障及び育児・発達支援の理論的 pursuit と方法論の検討、(2) 身体、知的、精神障害の評価方法及び自立支援の理論的追及と方法論の探究、(3) 加齢に伴う身体的、認知的変容過程の探究及び高齢者の健康の保持増進を促す方法論の検討等です。

授業内容

大講座	教員名	授業科目名	講義等の内容
看護学大講座	森本 美智子 教授	基礎看護科学 特別講義Ⅰ	輸入・新興感染症、院内感染の問題、広域に至る看護活動において、COVID-19を含む感染看護に関する多く問題を探求する。基礎看護学・感染看護学の概念および特徴を理解し、課題を明確にする。さらに高度な知見から基礎看護学・感染看護学に関する有効な看護方策を検証する。特に感染症看護、感染防止の活動と管理に関して、実験あるいは調査をとおし、感染看護分野の研究手法を探究する。
	荻野 哲也 教授	基礎看護科学 特別講義Ⅱ	体への圧負荷は、静脈穿刺時の駆血や褥瘡予防の体位変換など、様々な看護場面で問題となる。圧負荷による局所及び末梢の循環動態の変化と、それに伴う細胞・組織の応答について解明する。
	佐々木 新介 准教授	基礎看護科学 特別講義Ⅲ	新しい医療技術が開発され続ける中、看護学においてもエビデンスに基づいた新しい観察方法や援助技術の開発が望まれる。看護援助に伴う、生体反応を計測・可視化し、新たな看護援助の開発や看護援助の根拠について解明する。
	名越 恵美 准教授	成人看護科学 特別講義Ⅰ	がん治療の多くの発展から、がんは慢性病として考えられるようになり、がん医療はセカンドステージに入った。がんの治療を終えた後もがんサバイバーとして生きる患者・家族が人生を生き抜くための支援とその評価について探求する。
	未定	成人看護科学 特別講義Ⅱ	未定
	住吉 和子 教授	成人看護科学 特別講義Ⅲ	死亡率・罹病率ともに上位を占める慢性疾患は、複雑・高度に発展した時代を生きる人々の生活と環境から生じる副産物ともいえる。慢性疾患は、病む本人とその家族に持続的で多様な苦痛をもたらすことから継続的・総合的な支援が必要となる。さらに、慢性疾患患者の増加が医療費の高騰など社会の全般に影響することから、学際的な取り組みが必要とされている。 本講では、このような健康問題を広く理解した上で、生涯にわたって症状をコントロールし、病いと折り合いをつけながら生活を調整し再構築していくための患者と家族への援助方法を探求することを目的とする。
	實金 栄 准教授	老年看護科学 特別講義	人生の最終段階にある人々を対象とするケアについて、国内外の研究動向を参照しながら、個人や家族及び療養場の多様化に沿った、全人的にケアの実践と評価について量的研究により検証する。
	沖本 克子 教授	小児看護科学 特別講義	小児看護学の主要な理論と概念について理解を深め、子どもと家族への支援について様々な視点から検討する。
	岡崎 愉加 准教授	母性看護科学 特別講義Ⅰ	女性とその家族を取り巻く健康問題について、女性のライフサイクルの特徴を踏まえ、リプロダクティブヘルス/ライツの視点で論じながら、看護介入について検討し、各自の研究へと発展させる。特に思春期の子どもの生活は家庭と学校が中心であり、そこに看護職がどのように連携することが、親の子育て支援や子どもの健全育成につながるかについて探求する。

大講座	教員名	授業科目名	講義等の内容
看護学大講座	池田 理恵 准教授	母性看護科学 特別講義Ⅱ	妊娠、分娩、育児という周産期周辺では、母子の心身の健康、社会的側面での問題が凝縮し、顕在化しやすい。この時期の対象者は国内では、若年・高年妊婦、不妊、産後うつ、子ども虐待等、国際社会では男女の不平等、貧困、環境問題、紛争の弱者として深刻な健康問題を抱えている。これら国内外の母性看護学、助産学を取り巻く現状と課題について最新の研究動向や分析手法を参照しながら女性、家族を取り巻く問題を探求する。
	森永 裕美子 教授	地域看護科学 特別講義Ⅰ	健康と看護の概念に関する史的変遷を踏まえて、地域看護学（行政・学校・産業・在宅）の成立基盤と研究の動向を探究する。さらに、海外文献を含む先行研究への批判的検討を通して、地域看護学の発展に寄与する理論を検証し、新たな知見を探究する。
	井上 幸子 准教授	精神看護科学 特別講義	精神看護学領域における研究計画の立案・研究実施にむけて必要な理論を理解し、活用できることを目標とする。臨床、地域、学校、企業等の様々な場で行われる精神看護を想定し、用いられる諸理論を理解した上で研究計画を立案、実施する。
	沖本 克子 教授 森本 美智子 教授 荻野 哲也 教授 住吉 和子 教授 森永 裕美子 教授 岡崎 愉加 准教授 池田 理恵 准教授 實金 栄 准教授 名越 恵美 准教授 井上 幸子 准教授 佐々木 新介 准教授	看護学特別 研究	指導教員の指導の下、研究テーマとその周辺分野に関する最新の研究動向を調査し、学会への参加や他機関との交流などを通して、研究計画能力と総合評価能力を培わせるとともに、新たな知を創造できる能力を身に付けさせる。博士論文作成のための理論、調査、実験等に関する研究指導を行う。

大講座	教員名	授業科目名	講義等の内容
栄養学大講座	入江 康至 教授	内科学特別講義	近年、慢性腎臓病(CKD)と心血管病(心筋梗塞・狭心症・心不全・脳卒中など)が密接に関係していることが明らかになり、心腎連関症候群として注目されるようになってきた。心腎連関は糖尿病、メタボリック症候群とも関わりが大きい、特に高齢社会において重要性が高く、わが国でも関心が高まってきた。糖尿病、腎不全、心不全、貧血、脳卒中後遺症を合併する症例が多く、栄養管理には病態や治療に対する深い理解が必要である。本講義では、心腎連関の病態生理について学び、合併症の治療法を理解する。
	田中 晃一 教授	遺伝子工学特別講義	近年の分子生物学研究の進展は、生命の設計図である遺伝子を操作して生物の機能を望み通りに変化させる遺伝子組み換え技術を生み出した。今やこの技術は産業分野における有用物質の生産や有用生物の育種、医療分野での診断および治療に欠かせない存在となっている。本講義では遺伝子組み換えの歴史的背景、様々な技術とその応用について紹介し、遺伝子工学への理解を深め今後を展開する。また遺伝子組み換え技術の農業・畜産分野への利用について、生産者、消費者、地球環境など様々な視点から議論する。
	山本 登志子 教授	分子細胞生物学特別講義	脂質メディエータは、生体内の恒常性の維持のみならず、様々な病態にも深く関与する。脂質メディエータの生体内意義の解明には、局所での生合成系や情報伝達を知ることが重要である。脂質メディエータ合成系酵素の酵素連関や受容体との関係について、生化学的・組織細胞化学的に理解する。さらには、病態に関わる脂質メディエータをターゲットとした食品の機能性について考察する。
	伊東 秀之 教授	食品機能科学特別講義	食品における機能性成分の検索、構造決定、機能性の評価方法について論述することができる。 応用栄養学領域の研究基盤として、食品の機能性に関する研究を体系的かつ具体的事例を示して、食品機能科学分野の将来性を考究する。
	高橋 吉孝 教授	脂質分子病態科学特別講義	栄養素としての脂質は、単にエネルギー源として重要なだけではない。必須不飽和脂肪酸から一群の生理活性物質が作られ、ヒトの体内でのホメオスタシスや様々な病態において、重要な役割を果たしている。これら脂質メディエータを合成する酵素やその受容体の分子レベルでの解析により、アレルギーや炎症、血栓性疾患だけでなく、動脈硬化、癌、皮膚疾患といった広い範囲の病態における新たな治療方針が模索されている。 本講義では、これまでの研究により明らかにされたこれらの脂質メディエータの合成経路と病態との関連について最先端の内容を解説する。
	中島 伸佳 准教授	食品酵素科学特別講義	アミノ酸発酵や醸造食品の製造などの応用微生物学的技術を基礎として、近年、遺伝子工学やタンパク質工学の手法に支えられた「ニューバイオテクノロジー」が急速に進歩した。 本講義では、天然資源である動植物、微生物の様々な代謝反応を特異的かつ選択的に進行させ、食品機能の改変を行いうる各種の「酵素タンパク質」の反応機構を分子レベルで解明する。さらに、その触媒機能の応用により、食品機能成分の機能向上、有用な新機能性物質の生産、並びに今後の食糧資源の確保と再利用を目指す「高度な食品酵素バイオ」について、最新の実例を取り上げて学際的に考察する。

大講座	教員名	授業科目名	講義等の内容
栄養学大講座	山下 広美 教授	食品栄養科学 特別講義	食品中には主要な栄養素以外に、生体調節機能を有する生理活性成分が存在する。生活習慣病の増加とともに、食品中の機能性成分に注目が集まっている。 本講義では、これまで報告されてきた、生体のエネルギー代謝制御因子とその作用機序、さらにエネルギー代謝制御の破綻と肥満、メタボリックシンドロームとの関連について解説し、それらを防御・改善する食品中の機能性成分とその作用について最新の研究成果を基に解説する。
	川上 貴代 教授	栄養予防治療 科学特別講義	疾患に対する予防や治療の基盤として、食事、経腸栄養、経静脈栄養をはじめとする栄養管理は非常に重要である。また、生活習慣病関連での食事・栄養療法は、単なる栄養補給にとどまらず、ライフスタイルを含めた介入が必要となるものの学術的エビデンスは少ない現状である。そこで本講義では、これまで明らかにされた栄養療法、ライフスタイル療法のうち、特に肝疾患を中心に取り上げ、その現状と課題について解説する。
	久保田 恵 教授	公衆栄養学 特別講義	栄養を含めた環境因子や遺伝素因と生活習慣病との関連について、特に骨粗しょう症を取り上げて集団における健康増進のための栄養介入について解説するとともに、関連分野のトピックについて討議し、現状や課題を理解することを目的とする。
	未定	食品調理科学 特別講義	令和4年度開講予定なし
	川上 祐生 准教授	機能分子科学 特別講義	生活習慣病を予防する観点から、食品の健康機能の重要性が認識されるようになってきた。本講義では、生活習慣病を中心とする病態に対して、食品に由来する機能分子が示す生体調節機能について最新の研究を解説する。
	李 奎姫 非常勤講師 方 定志 非常勤講師	東アジア栄養 学特別講義	韓国特有の応用微生物に関する考え方とそれを利用した発酵食品、及び中国における食生活の特徴、遺伝素因及び生活習慣病について概説し、韓国、中国並びに日本における栄養学の違いについて認識を深める。講義は全て英語で行う。
	山本登志子 教授 入江康至教授 伊東秀之教授 高橋吉孝教授 中島 伸佳 准教授 山下広美教授 川上貴代教授 田中晃一教授 川上 祐生 准教授	栄養学特別研究	指導教員の指導の下、研究テーマとその周辺分野に関する最新の研究動向を調査し、学会への参加や他機関との交流などを通して、研究計画能力と総合評価能力を培わせるとともに、新たな知を創造できる能力を身に付けさせる。博士論文作成のための理論、調査、実験等に関する研究指導を行う。

大講座	教員名	授業科目名	講義等の内容
保健福祉学大講座	岩満 賢次 教授	保健福祉政策特別講義	近年、社会福祉政策において、民間の役割がより一層高まっており、公私関係が複雑化してきている。特に、計画策定など意思決定における公民の協議（ガバナンス）がより発展している。 本講義では、公私関係の諸理論を整理し、現在の社会福祉政策の状況を公私関係の視点から検討していく。
	近藤 理恵 教授	家族保健福祉学特別講義	家族の個人化や多様化が進行している高度に近代化された現代社会においては、新しい家族問題が生じている。 本講義では、現代家族が抱える家族問題の現状と要因について家族社会学的に検討するとともに、家族問題を解決するために必要な家族政策とファミリー・ソーシャルワークの在り方について国際的な視点から講述する。
	中村 光 教授 原野 かおり 准教授	高齢者保健福祉学特別講義 I	高齢者（加齢に伴う疾患を持った成人を含む）の身体および運動の障害とそれに起因する生活問題および心理問題に関する、評価と介入・支援の方法論について理解する。
	中村 光 教授	高齢者保健福祉学特別講義 II	高齢者（加齢に伴う疾患を持った成人を含む）の認知およびコミュニケーションの障害とそれに起因する生活問題および心理問題に関する、評価と介入・支援の方法論について理解する。
	高戸 仁郎 教授	障害者保健福祉学特別講義 I	機能障害を有する人々の生活の質の向上を支援するには、まず様々な角度からの障害程度の測定と評価が支援計画設計の手掛かりとして求められる。 本講義では、これらに必要な障害の測定対象物に関する生理・心理メカニズム、計測方法、計測に用いられる刺激の物理的性質や生理・心理学的意味、及び計測結果の生理・心理学的意味と解釈について解説する。
	坂野 純子 教授	障害者保健福祉学特別講義 II	障害児・者に共通する主要な心理的問題として「自己肯定感」に着目し、そこに重点を置き、その形成プロセスと促進資源について論じる。各障害児・者の独自の心理的問題については、それらの人々を理解するために重要な先行研究の到達点を概観し、これまで、あまり扱われてこなかった障害者の自己肯定感の形成支援の方法論について検証する。
	樂木 章子 准教授	心理臨床学特別講義	本講義では、子どもを取り巻く諸問題に関して、社会構成主義の立場からアプローチする。具体的には、原書購読（英語）を通して、トラウマを抱えた子どもに関する問題をグローバルに捉え、心理学的トラウマに関するケアを学び、多角的な視点から検討する。
	山本 孝司 教授 新山 順子 准教授	子ども臨床特別講義 I	子どもの心身の発達を踏まえたカリキュラムのあり方、評価の方法に関する国内外の先行研究および先進的な取り組みを参照しながら、わが国における子ども支援政策の方向性を展望する。
	未定	子ども臨床特別講義 II	未定

大講座	教員名	授業科目名	講義等の内容
保健福祉学大講座	村社 卓 教 授	地域保健福祉学特別講義Ⅰ	<p>今日、地域福祉の推進を背景とした総合的かつ包括的な相談援助は、転換期における我が国のソーシャルワークを特徴付けるものである。また国際的にも、人々のエンパワメントと解放を促すソーシャルワークは、人々がその環境と相互に影響し合う接点として地域における生活場面を介入の対象としている。</p> <p>本講義では、地域を基盤とした相談援助により生活支援を行うソーシャルワークの理論特性について、主要な実践モデルの批判的検討を通して明らかにする。</p>
	竹本 与志人 教 授	地域保健福祉学特別講義Ⅱ	<p>地域住民の健康を維持・促進あるいは阻害する要因等について、ミクロ・メゾ・マクロの3レベルから評価する方法と介入方法について研究する。</p>
	近藤 理恵 教 授 岩満 賢次 教 授	国際保健福祉学特別講義	<p>21世紀はこれまで以上に地球規模で少子高齢化が伸展することが予測されている。国際的な視座からその影響を見直すと、歴史的・経済的・文化的等の背景の違いから、世界各国はそれぞれ独自の保健福祉問題を抱えており、他方、その問題解決に対し水準の高い適切なシステムの開発を希求している。</p> <p>本講義では、特に少子化予防システムと高齢者介護システムに関する世界の現状を概観しながらそのモデル化を試み、21世紀における今後の保健福祉システムに関する在り方について展望を試みる。</p>
	近藤 理恵 教 授 中村 光 教 授 村社 卓 教 授 山本 孝司 教 授 坂野 純子 教 授 高戸 仁郎 教 授 竹本 与志人 教 授 岩満 賢次 教 授 樂木 章子 准教授	保健福祉学特別研究	<p>指導教員の指導の下、研究テーマとその周辺分野に関する最新の研究動向を調査し、学会への参加や他機関との交流などを通して、研究計画能力と総合評価能力を培わせるとともに、新たな知を創造できる能力を身に付けさせる。博士論文作成のための理論、調査、実験等に関する研究指導を行う。</p>

(注) 授業科目及び担当教員は一部変更する場合があります。

出願・受験・その他に関するお問い合わせ先

岡山県立大学事務局教学課入試班

〒719-1197 岡山県総社市窪木 1 1 1 番地

TEL 0866-94-9163 (直通)

0866-94-2111 (代表)

ホームページ <https://www.oka-pu.ac.jp>

電子メール nyushi@oka-pu.ac.jp